

期末試験が終わりそれぞれの授業でテストも返却されましたが、生徒のみなさんは学習の成果を発揮することができたでしょうか。試験の2日目の午後、皆さんが後半の試験のための勉強に励んでいるところに、実は私たち先生も研修に励んでいました！

「性的指向・性自認」に関する教職員研修をおこないました！

国会で「LGBT 理解増進法案」が議論されたり（成立しませんでした）、オリンピックなどのスポーツ界でも「性的多様性」が認められるようさまざまな運動が展開されたりしている現在。邇摩高校でも、多様な性のありかたに対する理解をまずは私たち教職員が深めようと、6月25日（金）の放課後、講師の先生をお招きして講義をしていただきました。

『自分らしく生きる～多様な性と人権について～』



(facebook ページより許可を得て掲載)

●講師： ^{たが のりか}**多賀 法華** さん (左写真)

島根県雲南市出身・在住。2015年にSNS上で性的マイノリティであることをカミングアウト。その後、2017年「nama～自分らしく生きる～」、2019年「自分らしく生きる～多様な性と人権について学ぶ～」等の演題で、地元企業や小・中・高等学校で講演活動をおこなうように。2021年にSNS上のコミュニティ『島根のちよっこしLGBTQ相談室』を島根ルーツの仲間とともに開設し、活動中。

まず、性のあり方は多様だと言われますが、出生時の性（いわゆる生物学的な男女）だけでなく、右の表のようにとらえ方はさまざまです。このうち、性的指向と性自認については、「SOGI：ソジ」(‘Sexual Orientation and Gender Identity’)という言葉でまとめられることがあります。また、特定の性的指向や性自認をもつ人を、「LGBT (LGBTQ)」と呼ぶことがあります。

【多様な性のとらえ方】

- 出生時の性：身体的特徴による性
- 性自認：自分の性別をどう認識しているか
- 性的指向：性的にひかれる対象
- 恋愛指向：感情的にひかれる対象
- 表現する性：服・しぐさ・言葉づかいなど

他

講師の多賀さんは、現在「身体は女性」、「心は（男性と女性の）真ん中らへん」、「恋愛対象は女性」、「短髪が好きで運動着やスポーツ系のラフな服装が好き」だそう。そして、ご自身の幼い頃から今にいたるまでの体験をもとにして、「**どのような性であっても、一人ひとりが幸せを追求できること**」、また「**多様な性のあり方を認め合える社会の実現**」を訴えておられました。

<そもそも「性」って・・・> 身体的な特徴や社会的な役割に関わらず、性のとらえ方・あり方は一人ひとり違うものです。また、先に書いたとおり性は「男女」で二分できるものではなく、グラデーションのように多様な色の中にあると言われます。「男だからこうであるはず」や「女だからこうするはず」といった固定観念で相手を見たり、そもそも相手の性を決めつけたりするべきではありません。そんな、実に多くの気づきを研修を通して得ることができました。

<先生方の感想は・・・> 研修会のあと先生方からは次のような感想がありました。先生たちがどのような想いを持っているのか、ぜひ読んでみて下さい。そして、講師の多賀さんの活動に興味があるという人は、ぜひ下のリンクにアクセスしてみてくださいね。邇摩高の図書館や保健室にも、性に関する本や資料がありますよ！

☞世の中が様々な指向や自認を認め合っていると良いなと思います。関わっている生徒たちに対しても、その「生徒らしさ」を大切にしていきたいです。

☞「私が『障がい』ではなく、私の周囲が『障がい』になっている。」この文章は、非常に考えさせられました。自分自身も思い込みで障がいになっている場面が多くあったのではないかと思います。

☞当事者の方の体験を通した内容だったので、ひとつひとつが参考になった。自分ゴトとして考えることができた。「1人1人の幸せは何かを追求してゆくことこそが大切」という言葉が一番わかりやすかったので、このような考え方を基本として生活したいとあらためて思った。

☞そもそも社会は多様性（多様な性）で成り立っているというあたり前のことを改めて知らされました。人種や民族、肌の色・・・等いわゆる分かりやすい多様性ではなく、すぐ隣にいる人も「自分とは違う個性」をもって、個性は人それぞれです。真の多様性社会を目指して学校教育もやらねばならないと思いました！

★多賀さんらがメンバーのコミュニティ：

『島根のちょこしLGBTQ相談室』

(<https://www.facebook.com/shimachocolgbtq/>)

※右のQRコードからアクセスができます。



●私たち教職員にできることは、生徒の皆さん一人ひとりが「自分らしく」生きていけるように支援をしていくことです。皆さんの「自分らしさ」が発揮できないときに、障壁となっているものをとりのぞけるよう、ほんの少しの力添えをすること、または、皆さん自身が「自分の力で」その障壁をとりのぞくことができるように、励ましを続けることだと思っています。皆さんが安心して学校生活を送ることができるように、先生たちも励んでいます！

(＊この便りは持ち帰り、保護者のかたと人権について語り合うきっかけにしてください。人権教育推進スタッフ：森脇)